ひらめきや思いつきには、意識的な集中の後にリラックスした無意識的な精神活動が必要なのかも知れない。創造の背後には、「遊び心」が必要であると思う所以である。このひらめきに関して、貴重な想い出がある。昭和四二年（一九六七年）の夏、北欧ノルウェーのオスロ大学での事であった。第一三回世界連邦国際会議の開催中の昼下がり、湯川秀樹博士と出会い、しばし対話を交わす機会を得た。私は単刀直入に「先生が中間子理論を発想された原点は何でしたか？」とお訊ねした。すると先生は、にこやかに次の様に答えられた。「君も経験したことがあると思うが眠りに陥ろうとする時に『ひらめき』や素晴らしい思いつきに遭遇する事があるでしょう、私は子どもの頃から、枕元にメモ用紙を置いて寝るようしつけられてきた。そのメモの集積のお陰ですよ」というお返事を頂いた。めがね越しに温顔で優しく答えて下さった湯川博士の面影は、強く心に印象づけられている。

オスロ大学での筆者

湯川博士

国際会議終了後、湯川博士のご紹介のお陰で、日本代表団は当時のローマ法王パウロ六世に拝謁の機会にも恵まれヨーロッパ大陸四、八〇〇ｋｍをバスで走破した旅行の想い出が、我が青春に悔いなしの想いを強くしている。

オスロ大学での湯川秀樹博士との邂逅は、『ひらめき』や思いつきの発見も、周到な準備とたゆまぬ積み重ねの努力なしには、達成されるものではないという事を学ばせてくれた貴重な人生の一駒であつた。

論理的な説明を超えた匠の技と勘や科学者の「突然のひらめき」をもっと大切にし昨今我が国の閉塞感に満ちた現状を打破する為にも、イノベーションを計らなければと思うこの頃である。

（立川市在住）

思い出の村上高等学校

赤見市郎（８回）

東京・新宿生まれの私が先祖の地村上で過ごしたのは村上小学校五年生の途中から村上中学校、村上高校二年二学期までの七年間という短い期間でした。お城山が目の前に見える三之町で過ごさせていただきました。昭和二三年から三〇年のことです。

そんなわけで私は村高を卒業していないのですがつい先年村上高等学校同窓会に新８回生と登録され皆様のお仲間入りさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

村高時代の思い出といってもう六〇年近い前のことですのでなかなか思い出せず断片的なことで恐縮ですが書き綴ってみましょう。

〈学校脱走事件〉

入学して間もない頃クラス内で他の中学校から進学してきた生徒等と意気投合して男女集団で、ある日、学校から抜け出し三面川とお城山に出かけてしまったことがありました。お城山の山頂から日本海を眺め、三面川の堤防で川面を眺めみんなで肩を組んで青春歌を歌ったことを思い出します。

村上高校の旧校舎（現市役所の場所）

〈教室番号の表示板入れ替え事件〉

当時村高の各教室の前には教室番号の表示板がありました。ある先生はいつもその表示板目当てにチョーク箱・教科書を小脇に抱えて教室に入ってくるのですが、ある時私たちのクラスの〇君がそのクセを見抜き、隣のクラスの表示版と入れ替え、更に私たちの教室の入口の引き戸の上に黒板拭きを挟んでおいたことがありました。それがどのようになったかについては読者の皆様のご想像にお任せしますが、ほぼ〇君の計画どおりに進行したことを書き添えておきます。

〈全校マラソンのこと〉

毎年一回全校マラソンがあり学校を出発し街中を走り抜け日本海にむけ走り帰ってくるコースでした。二年の時一六位という結果でしたので三年の大会ではある目標を心に決めていましたが転校で実現できず、今でも心残りの一つとなっています。